

目的 近年合成ピレスロイド系殺虫剤が羊毛害虫防除に適用されるようになった。各種ピレスロイドを検討し効果のみられたFenprothrin, d-Cyphenothrin について、基礎的資料を得るために今回は羊毛布の防虫加工処理法などについて、イガ (*Tinea pellionella*) 幼虫を用いてその効果を判定した。しかし、カツオブシムシ類には食害抑制効果が大きく 殺虫力は小さかったので、今回はカツオブシムシ類に対するピレスロイドの効力を検討した。

方法 用いたピレスロイドはPermethrin, Fenprothrin, d-Cyphenothrin で羊毛布に0.03, 0.06% (o, w, f) 濃度で加工し、常法で食害試験を行った。さらにヒメカツオブシムシ (*Attagenus unicolor japonica*) ヒメマルカツオブシムシ (*Anthrenus verbasci*) 幼虫について浸漬法によって殺虫力の検討も行なった。

結果 食害試験の結果からヒメカツオブシムシに対しては各ピレスロイドとも食害抑制効果が大きく、9週間後でも食害率はコントロールの5%以下に抑えられた。しかし、ヒメマルカツオブシムシでは0.06%加工でも食害抑制効果は認められなかった。ヒメマルカツオブシムシ、ヒメカツオブシムシとも9週間の食害試験後も死虫はみられず、殺虫力は認められなかった。浸漬法による殺虫試験効果では、d-Cyphenothrinの殺虫力が大きく供試虫ではヒメカツオブシムシの薬剤抵抗性が最も大きかった。

LD ₅₀ (μ g / 体重 mg)			
	イガ	ヒメマルカツオブシムシ	ヒメカツオブシムシ
Permethrin	113.1	187.3	5654.5
Fenprothrin	169.3	216.7	4597.1
d-Cyphenothrin	42.1	43.6	2845.8